

ありがとうリスペクトキャンペーンの推進について

石川県ミニバスケットボール連盟

理事長 苗加健一

今大会はありがとうリスペクトキャンペーンを推進して行きます。

試合開始時、終了時にコートにいる選手はお互いに握手しありがとうの気持ちを伝えること。

(1) 開始時握手のタイミングは主審の指示に従うこと。

(2) 終了時整列、あいさつ後互いに握手をし“ありがとう”と声を掛け合い終了する。

なお、相手チームベンチへのあいさつはキャプテンが代表して行い、速やかにベンチを空けること。

「ありがとう リスペクト」キャンペーンについて

日本ミニバスケットボール連盟

1. ねらい

ミニバスケットボールのゲームを一緒にプレーしてくれる仲間や関係者に対して、いつも感謝の気持ちを持ってプレーすることの大切さと素晴らしさを伝えていく。

2. 設定理由

競技登録者数15万人の児童が全国各地で数多くの各種大会やゲームに参加している。しかし、いつまでたっても、指導者や保護者のトラブル、不祥事が続き、「暴力行為の根絶に向けて」の通達文書がいまだにホームページに掲載されている状況である。

後追いの指導ばかりではなく、先んじて指導をしていくことも必要であるとする。ほとんどの児童・指導者が「友情、ほほえみ、フェアプレー」の精神にのっとり活動を展開しているのは事実である。しかし、中にはゲーム終了後、お互いに相手チームの児童に対して感謝の気持ちやありがとうの声をかけられないケースが見られる。さらには、相手チームの児童に誹謗中傷や蔑むような行為に及ぶ事さえある。

また、指導者、保護者も勝敗に対してジュニアスポーツにおける正しい知識・理解や見識の欠如が見られる場合もある。例えば、勝敗のみに拘りすぎ、勝てないチーム指導者は良い指導者とはいえない等、勝利至上主義にとらわれすぎる面が見られる。これでは、お互いに気持ちよくゲームをし、大会に参加することが難しくなり、本連盟の命題である普及・育成の活動に支障をきたすことも起こりうる。そこで、児童育成のための基本的な人権意識の啓発とミニバスケットボールの普及・育成の一助になるよう、標記キャンペーンを企画・立案した。